



④足場を組んで乗車場作り

⑤両側で計52本もの
ながらが立てられる⑥バンセンでながらを
固定。角度がポイント⑦300本の竹を付けるレール作り、
慎重に黙々と作業は進む⑧全長約50mの竹コースター
完成間近!

昨日の雨とはうってかわって晴天となった祭り前日、朝7時に青・子のメンバー30名以上が集まり、組み立て作業は始まります。

まずは、建築用の足場を組んで乗車場所が作られると同時に、レール部分の支柱となる「ながら（丸木）」が両

まるで線路のように

路に近いこと、急斜面ではなく平場であること、人家が近くにないこと、これらの条件を満たす場所を探すのが大変なのです。

側には2m間隔で26本立てられます。次はレール作り。乗車場の高さから半分に切ったパイプの形になるように弧を描いて、立てられた支柱の両側にバンセンと呼ばれる針金でながらを縛りながらつけていきます。この作業が竹コースターの要となり、一番難しく神経を集中させる作業だと青・子の両会長は話します。両側に取り付けのため、水平でなければなりません。ソリがまっすぐ進まなくなるからです。そして角度。この角度がポイントで、緩やか過ぎてもスピードが出ずに面白くないし、急過ぎると、かえって危険だ

からです。ここが決まれば、後はひたすら竹を結んでいく作業。線路のようなこの竹の上をソリが滑っていくわけです。竹の曲がり具合や太さを見ながらくり付けていきます。

これらの作業を経て午後4時頃になると、全体像が明らかになってきます。看板や手すりを取り付けた後、微調整と最終チェックを当日に残し、準備は終了です。

すっかり日に焼けて赤ら顔の青・子のおっちゃんたちからは「あとは当日の天気だけだな」という声が聞こえてきました。

1 日限りのジェットコースター その名も竹コースター

あじさい祭りの会場に一夜にして現れ、祭りに訪れる“ちびっこ”たちに大人気な乗り物「竹コースター」。その名のとおり、大部分が竹を使って作られていて、竹のレール上をソリが滑走する手作り感満載なところが、乗る人のスリルを倍増させているのかもしれない。

会場でもひと際目を引く竹コースターは、町の青少年相談員と子ども会（青・子）の方々によって、祭り当日の1日だけのために作られます。

今月号では、毎年およそ600名が乗車するこの竹コースターの「舞台裏」取材しました。



使う竹は300本 好竹林、探すのも一苦勞

湿度と気温が徐々に高くなってくる5月の中旬、現場に足を運ぶとチェンソーのエンジン音と竹がこすれ合う音が聞こえてきました。毎年この時期に竹は切り出されます。

「チェーンソーで根元を切る係」、「根元を抱えて引っぱり出す係」、「枝を取る係」、「3mにそろえて切る係」、「使わない部分を粉砕する係」など、担当に分かれて黙々と作業は進みます。今年も、30名近い青・子のおっちゃんたちが集まって、玉のような汗を流しながら約6時間かけて竹切りの作業が行われました。そのほとんどが竹を使っているため、3mにそろえて切った竹は何と約300本、2トントラック4台分にもおよびます。使われる孟宗竹は、年を経てある程度の太さがあり、丈夫なものである必要があります。600名以上の乗車人数と使用に耐えるためです。

成長が早く繁殖力が強い竹は、そのままにしておくとすぐに竹林になってしまいます。町の随所でも竹林を見かけるため、竹を確保することは容易だと思われるがちですが、実は逆。運搬や安全性のことを考えると、ある程度道



③トラックに積み込まれる300本の竹



②3mの長さに切りそろえる



①次々と竹を切り出す

竹コースターが出来上がるまで